

題目「再生医療研究におけるアイデンティティの意味」

見上 公一（総合研究大学院大学）

再生医療は人間の細胞が本来持つ再生能力を治療に利用することを目的とする医療分野の総称であり、21世紀に入り再生医療に対する期待が世界各国で高まって来ている。日本においても京都大学の山中教授らによるiPS細胞の開発などにより近年注目を集めている。日本だけではなく先進国各国の政府も5年後、あるいは10年後の実用化を目標として再生医療研究に対し援助を進めて来た。しかしながら各国における研究体制の在り方には大きな違いが見受けられる。例えば英国においてはヒト胚幹細胞が重要な位置づけであるのに対し、現在の日本の再生医療研究の中心はiPS細胞である。このような違いを社会学的観点から分析し理解することは学術的立場からだけではなく、今後再生医療の研究成果がどのように社会に貢献するかを考える上でも重要となってくる。社会学にも多様なアプローチが存在するが、今回はその中でも特にアイデンティティという概念に焦点を当てて再生医療というものを考えてみたい。医療社会学や医療文化人類学において医療行為は患者のアイデンティティを再構築する社会的作用があることが議論されている。そのような議論と比較検討しながら、「己」と「他」の境界線というものがある日本と英国の再生医療研究の方向性が決まる上でどのような意味を持っているのかを検証していく。